

平成28年度 第4回 尼崎市社会教育委員会議について

標題の会議が、次のとおり行われましたので報告します。

1 と き

平成29年2月1日(水)午後3時から午後5時まで

2 と ころ

尼崎市庁舎北館3階教育委員会室

3 出欠状況

- (1) 出席委員 11名
- (2) 欠席委員 1名
- (3) 出席職員 社会教育部長以下10名

4 会議成立の報告

司会者より定数12名中11名が出席し、会議が成立している旨の報告があった。

5 会議内容

協議事項

議題1 平成28年度事業報告及び平成29年度主要事業(新規・拡充事業等)について

今年度の社会教育委員会議では、尼崎市総合計画に係る施策評価表に基づき、市民・事業者の視点から多くの意見をいただいた。意見を反映した新規・拡充事業及び施策評価に係る事業について、平成28年度の事業報告と合わせ平成29年度主要事業について各所属長から説明を行った。

〔社会教育課長から説明〕

- ・尼崎学びの拠点事業 社会教育主事講習：大阪教育大学(受講者2名：教育委員会事務局1名・市民協働局1名)ブラッシュアップ研修の実施
- ・生涯学習情報誌「あまナビ」の発行 民間企業との協働発行4月：学びを活かして地域で活動する方の声を特集10月：地域で子育て・地域で見守りをしている方々を特集(36,500部発行)
- ・親子ボランティア体験学習事業(参加者：親子4組10人延べ20人)
- ・「親子de学習・体験 高齢者になったら」1回目：尼崎市立すこやかプラザ親子で高齢者疑似体験2回目：特別養護老人ホームサンホーム大庄西 高齢者と手遊びや歌などで交流
- ・あまらぶ歴史体験学習事業 わたしたちの尼崎バスツアー(1回)田能資料館・文化財収蔵庫(参加者：19人)わたしたちの尼崎親子体験隊(3回)田能資料館(勾玉づくり)17組31人 文化財収蔵庫(糸つむぎ体験など)13組32人大庄公民館(ペーパークラフトづくり)7組16人
- ・学校図書ボランティア育成事業 委託先(NPO法人尼崎子ども情報センター)(訪問研修6校)
- ・特別支援ボランティア養成講座 1回目 特別支援って何?・ボランティア活動について(参加者：28人)2回目 特別支援ボランティア活動者交流会(参加者：10人)
- ・地域による土曜学習支援モデル事業 園田小学校(年間5回：折り紙教室、救急救命講習、フラワーアレンジメント教室、グランドゴルフ、はたおり体験)
- ・学校支援活動コーディネートモデル事業 コーディネーター配置校：杭瀬小、尼崎北小、上坂部小、武庫東小、武庫の里小、立花西小、園田北小(計7校)

〔平成29年度〕

- ・地域と学校の連携・協働活動事業(学校支援活動コーディネートモデル事業を名称変更)
- 地域と学校の連携・協働活動事業実施小学校数の拡大に向けて調整を行い、加えて実施校に配置するコーディネーター間の交流会や、未実施校も含めた関係者の研修会等を開催する。

- ・全ての事業に通ずることとして、社会教育課としては、学びを活かすことを中心に据えて様々なところと繋がることをキーワードとして取組んで行く。

〔田能資料館長から説明〕

- ・特別展事業 特別展「弥生のガラス」H.28.11.1～12.18 入館者 6,727人・企画展 前期「THE 田能遺跡」H.28.4.19～6.26 入館者 14,637人 後期「田能遺跡と弥生時代」H.29.2.11～3.31 予定
- ・古代のくらし体験学習事業 勾玉をつくろう 参加者延べ 62人 ・古代米を育てて食べよう(全6回) 参加者延べ 145人 ・石の鏝をつくろう(8/14) 参加者 17人 ・青銅器(銅鏡)をつくろう(全2回)・弥生土器をつくろう(全2回)
- ・田能遺跡サポーター養成事業 平成28年度 田能遺跡サポーター倶楽部登録者 35人 養成講座・研修会 9回 サポーター倶楽部会合・茅葺き事前打合せ等 6回 小学校等団体見学への対応 27回 古代のくらし体験学習事業等での活動 81回 以上参加者延べ 475人 復元建物 茅葺き替え 3月予定
- ・平成29年度は、継続事業を更に充実できるよう取組んでいく。

〔歴博・文化財担当課長から説明〕

- ・歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業 歴史遺産保存活用フォーラム 平成29年3月下旬
- ・富松城跡の取得 所在地：尼崎市富松町2丁目409、412番地(市有地との交換を主に取得)面積：1,315.74㎡ 契約日：平成28年9月14日
- ・文化財収蔵庫企画展事業 第10回企画展「尼崎市制100周年記念100年前の尼崎」〔実質会期50日〕参加者：3,241人(入館者数3,075人・展示解説参加者65人・解説講座受講者101人)11回企画展「描かれた尼崎」〔実質会期44日〕参加者：2,792人(入館者数2,641人・展示解説参加者93人・解説講座受講者58人)第12回企画展「夏季学習展 昭和戦前・戦中の小学校」〔実質会期36日〕参加者：2,363人(入館者数2,247人・展示解説参加者44人・ワークシート解答者72人)第13回企画展「市民協働企画展 伝えたい尼崎の伝説」〔実質会期38日〕参加者：2,959人(入館者数2,796人・展示解説参加者38人・解説講座受講者86人・体験学習会参加者69人・人形劇観覧者数20人)第14回企画展「大坂の陣と尼崎」〔実質会期38日〕参加者数：2,045人(入館者数1,850人・展示解説参加者36人・解説講座受講者159人)第15回企画展「発掘調査で分かったこと」 予定〔実質会期44日〕
- ・歴史資料保存公開事業 平成28年度尼崎市教育委員会収蔵資料展「初代尼崎市長櫻井忠剛の事績」 尼信会館3階展示室〔実質会期31日〕参加者数：1,420人(観覧者数1,302人・展示解説参加者63人・クイズ参加者55人)

〔平成29年度〕

- ・城内まちづくり整備事業 歴史館機能の整備等(文化財収蔵庫分) 尼崎の歴史文化について市民が学習できる拠点として(仮称)歴史館を整備することで、城内地区の他の歴史的建築物と合わせた都市の魅力向上と交流人口の増加をめざす。
- ・文化財収蔵庫企画展事業 第16回企画展「近代尼崎の交通史」第17回企画展「尼崎藩史話」第18回企画展「富松城と戦国時代の尼崎」第19回企画展「保存科学でよみがえった考古資料」
- ・歴史資料保存公開事業 平成29年度尼崎市教育委員会収蔵資料展「描かれた泰平の世の人びと」
- ・文化財収蔵庫は、歴史館機能の充実を図るため整備と耐震補強を行う。平成29年度に設計を行い平成30年度に着工という方向で準備を進めている。

〔スポーツ振興課長から説明〕

- ・がんばりカード事業のリニューアル がんばりカード事業をリニューアルし、新たに市民の運動やスポーツの取組回数に応じて、バッジの授与に加え、新たに市が絵本や紙芝居を購入し、図書館等

に配架することにより、市民が運動やスポーツに取り組む動機づけとし、市民のスポーツの実施率の向上及び社会教育施設の活用の一助とする。がんばりカード発行枚数 1,550 枚

〔平成 29 年度〕

・学校開放事業の運営の地域への移行

学校開放事業について更に効率的な運営を図るべく、将来的には「地域学校協働本部」も視野に入れる中、その運営を地域に移行することが望ましい。地域への運営移行にあたっては、学校開放事業の運営状況や運営移行の受け皿と考えているスポーツクラブ 21 の活動状況のいずれも、様々で違いがあることから、まずは移行に取り組みやすい環境にあり、かつ、他校のモデルとなり得る団体を選定し、運営移行を試行し検証するなか、問題点等を把握するよう努める。モデル校はスポーツクラブ 21 杭瀬を選定。モデル校での試行期間（予定）平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

・スポーツ推進計画（第 2 期）策定に係る準備作業 尼崎市スポーツ推進計画（第 2 期）策定の参考とするため、プレアンケート調査（平成 29 年 9 月予定）及び市民意識調査（平成 30 年 4 月予定）を実施する。

〔中央図書館長から説明〕

・図書館行事事業 マエアツプロデュース図書館で聞こうシリーズ「親子で楽しむ安全な旅の心得」講師：北図書館館長 山下照代 参加者 15 人「尼崎城跡の発掘調査の成果から見る尼崎城の歴史」講師：歴博・文化財担当 益田日吉課長（学芸員）参加者 25 人「尼崎城跡の発掘現場案内説明」講師：歴博・文化財担当 益田日吉課長（学芸員）参加者 36 人「城内地区まちづくり城址公園の整備」講師：まち咲き施策推進担当 星川昌則課長 参加者 43 人 「富松城発掘」講師：歴博・文化財担当 益田日吉課長（学芸員）参加者 16 人 「マエアツツアー」計 3 回 参加者 36 人

・図書館サービス網整備事業 図書館システムの更新・図書館ホームページの操作性向上・資料検索における書影情報の表示・読書記録のダウンロード・統計データの機能向上・デジタル新聞や法情報のデータベース導入・図書館イベントや新着図書情報をメールで送信する機能の追加・スマートフォン専用サイトの開設

・図書館では、様々な団体や部署と広く連携した事業を実施し、これまで利用がなかった市民の利用促進を図った。

〔平成 29 年度〕

・図書館サービス網整備事業 スマートフォン専用サイトの活用及び図書館イベントや新着図書情報のメール配信などによる情報発信を行う。

・新たに公民館図書室の日曜日の開架（9 時～16 時 30 分まで）を実施することで、市民サービスの向上を図る。

・図書館ボランティア養成講座を実施して、身体等に障がいをもち来館困難な利用者を対象とする図書の宅配サービスを検討する。

〔中公民館長から説明〕

・家庭・地域教育推進事業 立花(りっぱな)子育てひろげようサミット（3 回開催予定 参加団体数 16 団体）(開催内容)立花地区で活動する子育て関係団体が一堂に会し、その活動内容等の意見交換などを通じた学びの場を立花公民館が提供することにより、立花地区の子育て環境をよりよいものとしていく。(開催手法)郷土愛を育む観点から、立花地区の歴史や現状を知る学習機会を提供するとともに、子育てに精通した講師の助言の下、グループワークを基本に、子育て支援活動などについて様々な意見交換を行った。

・生涯学習推進事業 学びの楽しさを学ぶワンコイン講座（中央）輝くママになるために～ネイルア

ートで心も元気～参加者 10 人（小田）子育てに生かすコーチング～親のスキルアップが子どもの生きる力を伸ばす～ 参加者 28 人（大庄）ポーセリンアート体験講座 参加者 5 人（立花）基礎から学ぶ楽しいお片づけ講座～笑顔のある日常を～参加者 33 人（武庫）キッズ英語「ママと一緒に楽しみながら英語で遊ぼう」参加者 33 組（園田）自分だけの器をデザインしよう！参加者 29 人

- ・社会教育・地域力創生事業 生き方探求キャリア教育支援事業（武庫）講義形式：回数 10 回（武庫地区小学校 6 校、中学校 4 校）延べ人数 1,392 人（園田）職業別ブース形式：回数 9 回（園田地区小学校 8 校、うち園田南小学校 2 回）延べ人数 839 人

〔平成 29 年度〕

- ・家庭・地域教育推進事業 「立花(りっぱな)子育てひろげようサミット」平成 28 年度のグループワークの結果を踏まえ、立花地区への郷土愛を育む中で、子育て支援者同士のつながりづくりや、主体的な学習を支援するための取組みを進める。
- ・生涯学習推進事業 「学びの楽しさを学ぶワンコイン講座」誰もが気軽に学べる学習の機会を提供するとともに、学びを個人の能力向上に留めず、地域に循環する仕組みづくりにつなぐため、学びの楽しさを体感し、その成果を将来的に市民や地域に還元することを目標とした講座を 6 公民館において実施する。
- ・社会教育・地域力創生事業「生き方探求キャリア教育支援事業」小学校高学年等を対象に、地域の職業人による講義を実施し、児童・生徒が将来の希望や職業など自分らしい生き方について考える機会を提供するとともに、学習意欲の向上を図り、併せて地域の職業人に地域貢献の機会を提供する。

【社会教育委員からの意見】

「学校開放事業の運営の地域への移行」について

- ・スポーツクラブ 21 を想定して考えられているようであるが、小学校の開放だけではなく、中学校の開放についてどのように考えられているのか。
- ・中学校に広げるために、今後中学校でスポーツクラブ 21 という組織をつくるということか。現在のスポーツクラブ 21 が中学校まで管理するのは難しいのではないか。
- ・地域学校協働本部も視野にいれて移行を考えているようであるが、41 小学校中まだ 7 校のみの立ち上げの中、学校開放事業の運営まで被せていくというのは厳しいのではないか。地域への運営移行は、どれくらいの時期のことを想定しているのか。
- ・スポーツクラブ 21 の開始時（兵庫県からの事業）他市では学校開放に係るシステムがなかったこともありスポーツクラブ 21 が学校開放の運営の中心となっているが、尼崎市では昔から開放運営委員会が充実しており、スポーツクラブ 21 はその中の 1 団体として入っている。この関係性を逆転させようというのは難しいのではないか。
- ・開放運営委員会が主体となることも視野にあるのであれば、現在殆どがその状況で行っているのではないか。他市ではスポーツクラブ 21 ができた時に学校管理や運営を任せるシステムに変えているが、尼崎市では、今の現状からシステムを変えるのは大変であろうと感じる。
- ・現在、多額の予算を学校開放事業費（シルバー人材センター）に当てているところを、地域（スポーツクラブ 21）等に任せることにより、改革改善を図るといふ狙いなのか。
- ・モデル的に試行するとのことであったが、移行を進めるにあたっては十分に検討を重ね慎重に進めて頂きたい。

「中央公民館事業：社会教育・地域力創生事業」について

- ・武庫地区と園田地区でのみ実施されているようであるが、他の地区での実施の予定はあるのか。実施するにあたり何か課題やネックがあるのか。
- ・子ども達にとっては職業を選択する際の視野の広がり、地域の講師(職業)となる方にとっても学びの機会となる有益な事業である。ぜひ、事業を広めて頂きたい。
- ・学校ではキャリア教育の分野で、子ども達に「キャリアノート」を持たせ、将来の職業選択に生かせるよう職業について学ぶ機会を与える取組みを行っている。公民館と連携してコラボ授業ができれば、学校の負担も軽減され、より効果的に充実した内容での実施が期待できる。
- ・講師として小学生に分かりやすく伝えるのは難しい。公民館が講師となる方の発掘を地域で根を張って行うのであれば効果が期待できるのではないか。
- ・正しい職業観や労働意欲について、また将来何かの職業で社会貢献していくことなどを地域の方から聞くことは有意義である。自営業の方だけではなく公務員や会社員・先生等の話を聞くのも良いのではないか。

「図書館の取組」について

- ・図書館の取組は、いろいろと工夫があり面白いと思うが、指定管理になった北図書館の取組が見えてこない。社会教育委員としても北図書館の取組を知っておく必要があると思うのでご報告いただきたい。

【事務局から説明等】

「学校開放事業の運営の地域への移行」について

- ・その運営を地域に移行することが望ましいと考えており、運営移行にあたっては、まずは、全小学校にあるスポーツクラブ21で行っていきたいと考えている。中学についても、順次広げていくことは考えているが、小学校で課題や手法等を検証した上で進めてい行きたいと考えている。
- ・中学校の「学校開放事業の運営の地域への移行」については、別途組織をつくるということではなく、例えば小学校のスポーツクラブ21が近隣の中学校を運営できるかなどを含めて広く考えていきたいと考えている。
- ・地域学校協働本部との協働については、今後、そういった連携も可能性を含んで書いているが、学校スポーツ施設の開放に関しては、スポーツクラブ21が小学校で活動しており、まずは、現在の活動に付加するかたちで学校開放事業を担っていただけないかと考えている。
- ・開放運営委員会とスポーツクラブ21の関係は難しいところがある。試行を行う杭瀬小学校は両団体の会長が同一人物ということもあり、スポーツクラブ21が主体的に運営した場合の課題や、それぞれの団体の活動状況によっては開放運営委員会が主体となった方が良い場合もあるといったことも含めて検証をしたいと考えている。
- ・全体的な管理運営を可能な範囲でお願いしたいと考えている。
- ・現状で一気に変えることは難しいと十分に分かっており、まずは1校でモデル的に試行する中で実施の方法等を探るなど、ステップを踏んで慎重に進めたいと考えている。

「中央公民館事業：社会教育・地域力創生事業」について

- ・昨年度よりモデル的に行っており、今年度は武庫と園田地区でそれぞれの手法で実施した。他の地区については、モデル事例を参考にしながら学校と調整を進めている。大庄と立花地区が今年度1校で実施する予定であり、今後も広げていく計画である。
- ・学校教育と社会教育の連携(学社連携)の要素を具体化した事業であり、公民館としては、地域の方にも育って頂きたいと考えている。地域の方にとっては子ども達に話すために自分の学びを深め

られておられ、双方にメリットがある事業であると感じている。

その他

1 近松門左衛門の自筆草稿の寄贈について

〔歴博・文化財担当課長から説明〕

日本が誇る江戸時代の浄瑠璃作家で、尼崎にゆかりの深い近松門左衛門の自筆原稿が尼崎市に寄贈されることになった。この資料は尼崎市内の古美術収集家で研究家でもある寄贈者の所蔵資料で、約100年ぶりに発見された近松自筆原稿として平成13年に新聞報道によって注目された資料である。

全国の研究者からも注目を集めた資料であったが、国指定史跡の近松門左衛門墓所があるゆかりの尼崎の地で永く伝えてもらいたいという強いご意志により、尼崎市が100周年を迎えたことを機に寄贈のお申し出を受けた。また併せて、江戸時代の尼崎藩領内で採れる魚を描いた『尼崎産魚』もご寄贈いただいた。今後は、本市の歴史資料として文化財収蔵庫で大切に保存し、必要に応じ公開・活用を図りたいと考えている。

2 自治のまちづくりに向けて 「地域振興のあり方」と「みんなの尼崎大学」の検討について

企画財政局ひと咲き施策推進担当部長から説明があった。

【社会教育委員からの意見】

- ・ 学びの情報の一元化は待ち望んでいたことであり、さまざまな形態の施設や団体が繋がるのは素晴らしいことである。
- ・ 現在、少子高齢化が進んでいるので、これまで年代等で分かれていた学びを、異年齢が交流して学べる機会となるよう“学びの視点”で繋がって欲しいと期待したい。

〔議長から〕

委員から出た意見を今後の取組に繋げ活かして頂きたい。また、来年度の会議で、改めて事業の進捗状況や達成度合い、事業の効果や課題などについてご報告いただきたい。

以上